

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2021年4月13日

事業ID:2019517135

事業名:基盤整備

団体名:一般財団法人 全日本剣道道場連盟

代表者名:会長 下村 博文

TEL:03-5493-7080

事業完了日:2021年3月31日

事業費総額	:	84,185,318 円
自己負担額	:	66,585,318 円
助成金額	:	17,600,000 円
助成金返還見込額	:	0 円

1.事業内容

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 剣道錬成大会の開催
 - (1) 全国道場少年剣道大会
 - a. 日程等:7月29日・30日 舞洲おおきにアリーナ(大阪府)約3,500名
 - (2) 都道府県道場少年剣道大会
 - a. 日程等:4~6月 30,000名
 - (3) 全国道場対抗剣道大会・全国道場少年剣道選手権大会
 - a. 日程等:9月20日 島根県 1,000名
 - d. 内 容:道場対抗、個人戦

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 剣道錬成大会の開催
 - (1) 全国道場少年剣道大会(中止)
 - a. 日程等:7月29日・30日 舞洲おおきにアリーナ(大阪府) 3,500名
 - (2) 都道府県道場少年剣道大会(変更)
 - a. 日程等:新型コロナウイルスの状況を考慮し、47都道府県支部のうち開催可能な支部において随時実施。実施10県、4,446名
 - (3) 全国道場対抗剣道大会・全国道場少年剣道選手権大会(中止)
 - a. 日程等:9月20日 島根県 1,000名
 - b. 内 容:道場対抗、個人戦
- (1)および(3)については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業中止とした。
- (2)について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業内容変更とした。

(3)成功したこととその要因

- ・新型コロナウイルス感染症がまだ未知の状態である中、各都道府県支部において予選会の実施が困難であることにより、全国道場少年剣道大会をオリンピックの延期決定に合わせた早い段階で中止判断した。また道場対抗、個人選手権の各大会の中止を5月の理事会で決定した。
- ・実施が叶わなかったことは残念ではあるが、感染拡大防止対策を最優先に考え迅速な判断ができた。
- ・予選会を伴わない支部大会を都道府県道場少年剣道大会の代替として実施可としたため、感染状況が落ち着いている地域において少年剣士の目標となる大会を実施することができた。

(4)失敗したこととその要因

- ・全国大会中止に際し、各都道府県、市区町村の感染状況を注視し、状況が落ち着き大会開催が可能と判断した場合には全国予選を伴わない支部大会の実施を推奨したが、その開催、延期、中止の判断を全て各支部に委ねたこととなった。
- ・全国に組織として一括した判断が難しかったことにより、各支部内においては混乱もあったものと感じる。

(5)事業内容詳細

資料をCANPANに添付いたします(資料1:各都道府県大会実施・中止一覧表、資料2:写真)

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2. 講習会等の開催

- (1)全国選抜少年剣道合宿錬成会
a. 日程等:4月1日～4日 47名
- (2)剣道指導者研修会
a. 日程等:秋・春各1回 約50人
- (3)地区剣道道場指導者講習会
a. 日程等:秋～春2回 約50人



(2)事業内容の実施(完了)状況

2. 講習会等の開催

- (1)全国選抜少年剣道合宿錬成会(中止)
a. 日程等:4月1日～4日 47名
- (2)剣道指導者研修会(中止)
a. 日程等:秋・春各1回 約50名
- (3)地区剣道道場指導者講習会(中止)
a. 日程等:秋～春2回 約50人

(1)～(3)について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業中止とした。

(3)成功したこととその要因

全国の新型コロナウイルス感染状況を考慮し、感染拡大防止を最優先に考え迅速な中止判断ができた。

(4)失敗したこととその要因

合宿での人の繋がりを重視し、短期間において集中して技術・指導力に関する講習を直接的に行う本事業は、共同生活における感染の危険性を鑑み中止せざるを得ない状況となった。

(5)事業内容詳細

中止により詳細資料なし

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

3. 日本剣道少年団

- (1)剣道少年団研修会
a. 日程等:2月(予定)
b. 内容:小中計18名が剣道から学んだことを発表する。書道展の開催
- (2)海外交流
a. 日程等:3月下旬



(2)事業内容の実施(完了)状況

3. 日本剣道少年団

- (1)剣道少年団研修会(変更)
a. 日程等:2月
b. 内容:剣道から学んだことについて発表
例年の発表会場における口頭発表から、文書選考による実施に変更
- (2)海外交流(中止)
a. 日程等:3月下旬

(1)については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業内容変更とした。

(2)について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業中止とした。

(3)成功したこととその要因

・第43回日本剣道少年団研修会の体験実践発表を文書選考としたことで、全国9地区の各代表が欠場することなく、小・中学生18名全ての作品を選考できた
・書道展を早い段階でWEB展のみの開催として募集したことにより、事業を中止することなく各道場、剣士の理解の上で応募頂き、スムーズな一般公開ができた。

(4)失敗したこととその要因

・秋頃に一度感染状況が落ち着いたため、来場者等は制限の上、可能な限り例年どおりに発表形式での開催を目標として計画を進めた。
・年末年始の感染者急増および緊急事態宣言発令にともない、急遽文書選考に変更することとなった。
・それに伴い、予約していた会場のキャンセル費が生じた。

(5)事業内容詳細

報告書・資料をCANPANに添付いたします(資料1:第43回日本剣道少年団研修会報告書、資料2:第43回日本剣道少年団研修会体験実践発表結果、資料3:写真、資料4:プログラム)

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

4. ホームページの運営 連盟活動や大会の記録掲載等公開

(2)事業内容の実施(完了)状況

4. ホームページの運営 連盟事業の中止・変更の情報発信、およびセキュリティ対応の強化
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業内容変更とした。



(3)成功したこととその要因

大会等事業中止となっていた期間に、落ち着いてセキュリティ対策、リニューアル等の対応ができた。

(4)失敗したこととその要因

・連盟公式ホームページへのアクセス数が急減した。
・閲覧者が特に興味を持つ、各都道府県大会の予選会結果を始めとした大会結果の配信、またそれに代わる内容の更新がなかったためと考える。

(5)事業内容詳細

報告書・資料をCANPANに添付いたします(資料1:ホームページ事業報告書、資料2:アクセス数推移表)
および全道連ホームページ掲載内容をご参照ください(<https://www.zendoren.org/>)

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

1.全国大会をはじめ各種剣道大会を少年・少女剣士の目標とし、それに向けての厳しい修練を経て、強靱な心身、克己心、忍耐力等を育むことを目標とする。
また剣道の技術だけでなく、作文発表(弁論大会)、書道作品募集等により文武両道を促し、身体面、学業面でバランスのとれた青少年育成に努める。
少年合宿会においては、全国より選抜した少年・少女剣士を本部道場である錬成会館に集め、優秀な講師と寝食をを共にし、正しい剣道の指導と集団での節度ある生活の中でマナーや協力精神を学ぶ。子供たちのリーダーシップ性を育むと共に、今後の人生に活かせることを目標とする。
2.指導者講習会、研修会においては、指導者の日本の伝統文化としての剣道の質を高めると共に、少年指導方法の向上を図る。
3.上記の目的達成のため、各47都道府県支部と連携をとり、各地の剣道発展と少年・少女剣士募集に努めている。会員道場数は少子化が問題視される現在でも2250を下回らずに保ち続けており、各都道府県支部の努力、ホームページでの情報公開などの結果、連盟登録の小、中学生剣士数は平成22年からの6年間で約6,000名増加、現在は36,000名を超えている。剣道を通しての健全な青少年育成、それに携わる指導者育成を広く行っていくため、毎年、事業の更なる充実化、環境設備、安全性の維持・改善、および会員確保に力を入れている。

(2)目標の達成状況【700文字以内】

入力文字数	469	文字数チェック	OK
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国組織である当連盟は、各県を越える移動を促す事業、集団生活を行う合宿、密集を避けられない事業の全てを中止することとなった。 そのため、(1)助成契約書記載の目標の1、2に記載している事業について、第43回日本剣道少年団研修会のみ実施した。</p> <p>2.第43回日本剣道少年団研修会について、人の密集を避けるため書道展は募集時よりWEB展を計画し、体験実践発表については関係者以外の来場制限等も視野に入れ会場発表を行う予定とした。しかし年明けの感染再拡大および都市部の緊急事態宣言の発令にともない、文書選考での実施に変更した。各支部研修会、地区研修会において多くが文書選考となる中、応募総数は1493作品(昨年比-255)となったが、本年度唯一の少年剣士が参加する事業として、できる限りの内容を執り行えた。</p> <p>3.会員数は約2208(昨年比-27)、少年剣士登録数は約33335(昨年比-4745)と減少しているものの、予測できない中で多くの会員が活動再開を期待し、会員継続して頂いたことを実感している。</p>			

3.事業実施によって得られた成果

第43回日本剣道少年団研修会について応募作品数としては減少しているが、各道場における活動できず、道場として集合できない会員もあるところ、多くの少年剣士が作品を提出してくれた。
それらの作文作品により、各少年剣士が活動自粛期間の中でどのように剣道と向き合ったかを感じられ、またWEB上で公開、剣道雑誌に掲載することにより、会員外、一般への発信も行えた。大会のない期間において、勝負至上思考、競技本位でない、試合以外の武道の良さを改めて自分たちで考え、感じてくれた事業となった。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

本年、都道府県大会を実施できた10県以外の全ての支部、また実施支部内においても状況により大会に参加できなかった少年剣士たち全てが、2020年度会員登録意義の薄い年度となってしまった。また、活動自粛により、登録後に会員章(ワッペン)を道場主より門下生へ配布できない事態も起こった。来年度はそれらの一部補填等の意味を込め、2020年度ワッペンの継続使用を可とし、保険、登録業務経費をおおよそ差し引いた登録費で、2021年の少年剣士会員取りまとめを実施することとした。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

完了報告書等

(2)事業完了時の成果物名称

完了報告書等



(3)未作成となった要因

事業の中止による。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

<https://fields.canpan.info/report/detail/25360> (CANPAN)

※日本財団事業登録サイト『CANPAN』へ、本報告書に添付している資料と同内容を掲載しています。

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2021年4月13日

事業ID:2019517173

事業名:剣道の普及振興

団体名:一般財団法人 全日本剣道道場連盟

代表者名:会長 下村 博文

TEL:03-5493-7080

事業完了日:2021年3月31日

事業費総額	:	7,298,388 円
自己負担額	:	388 円
助成金額	:	7,298,000 円
助成金返還見込額	:	40,172,000 円

1.事業内容

(事業内容1～事業内容4について、『基盤整備』事業と同内容を日本財団へ報告しています)

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

1. 少年・少女剣士が全国大会をはじめ各種剣道大会に向けての厳しい修練を経て、強靱な心身、克己心、忍耐力等を育む。
2. 全国道場少年剣道大会において、2日間約700チーム(大阪おおきにアリーナ収容上限と想定されるチーム数)の参加を目指す。
3. 都道府県道場少年剣道大会において、団体戦約17,000名、個人戦約13,000名、計30,000名を目指す。少子化が問題視される現在も団体戦は例年同等数、個人戦は増加傾向を保持しており、今後もその継続を目標とする。
4. 全国道場対抗剣道大会・全国道場少年剣道選手権大会において、個人戦選手64名(各都道府県選抜)、道場対抗は試合可能数上限の80チームの参加を維持する。
5. 少年合宿会においては、全国より選抜した少年・少女剣士47名が本部道場である錬成会館に集まり、正しい剣道の指導と集団での節度ある生活の中でマナーや協力精神を学ぶ。
6. 指導者講習会及び研修会においては、それぞれ50名以上の参加を目指し、指導者の日本の伝統文化としての剣道の質を高めると共に、少年指導法の向上を図る。
7. 剣道少年団研修会で作文の応募1800を目指し、文武両道を促し、身体面、学業面でバランスのとれた青少年育成に努める。
8. ホームページのアクセス数を昨年比で年間5,000増を目指し、SNSを活用した更なる情報発信を図る。

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	537	文字数チェック	OK
1、2、4について、都道府県代替大会以外の、全ての全道連主催大会が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止となった。			
3の都道府県道場少年剣道大会において、感染状況の落ちついた時期および地域の10県が、感染防止対策に細心の注意を払い、個人戦等を含めた代替大会を実施した。例年は45都道府県実施で参加者が30000名を超えるところ、4446名となった。			
5、6について、合宿による感染リスク、及び全国からの移動による感染拡大リスクを考慮し、全ての合宿、講習会を中止した。			
7. 剣道少年団研修会で作文の応募1800を目指していたが、本年度は各道場が活動できていない影響もあり1493作品(昨年比-255)に留まったが、文書選考による実施に変更し事業開催することができた。			
8. ホームページのアクセス数は年間最低5,000増を目指していたところ、年間合計1,177,855と昨年比-156,585という大幅な減少となった。対してtwitterのフォロワー数は11,597と昨年の同時期より668名増加しており、受動的な情報収集と速報性の需要が増しているものとする。このことにより、サイトアクセス数の目標設定に関しては、SNSの情報発信を合わせ、今後適正な目標に見直しをしたい。			

3.事業実施によって得られた成果

第43回日本剣道少年団研修会について応募作品数としては減少しているが、各道場における活動できず、道場として集合できない会員もあるところ、多くの少年剣士が作品を提出してくれた。
それらの作文作品により、各少年剣士が活動自粛期間の中でどのように剣道と向き合ったかを感じられ、またWEB上で公開、剣道雑誌に掲載することにより、会員外、一般への発信も行えた。大会のない期間において、勝負至上思考、競技本位でない、試合以外の武道の良さを改めて自分たちで考え、感じてくれた事業となった。
大会等のない期間を利用し、ホームページ事業においてセキュリティ強化対策、事務局ページのリニューアルを行い、今後の運用における利便性を高めることができた。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

本年度は大会等中止により、競技剣道でない武道としての剣道の良さを改めて見直す機会となったが、少年剣士たちの明確な目標が失われた年ともなった。来年度は感染防止対策に充分留意した上で、各大会の開催を進めたい。
また本年度中に減少した全道連会員数、少年剣士会員章登録数が、来年度にどのように影響が出るかが想定できない状況である。各支部が感染防止対策に充分注意し実施した、本年度の都道府県大会代替大会では、普段以上に計画を練ったために運営がスムーズに行われたことも報告されている。引き続き感染状況に細心の注意を払いつつ、可能な内容での大会実施や道場活動を推進し、武道文化の維持、普及発展に努めたい。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

完了報告書等

(2)事業完了時の成果物名称

完了報告書等



(3)未作成となった要因

事業中止による。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

<https://fields.canpan.info/report/detail/25362> (CANPAN)

※日本財団事業登録サイト『CANPAN』へ、本報告書に添付している資料と同内容を掲載しています。

令和2年度(2020) 事業一覧

月	事業名	開催日	開催場所
2020年			
4	第59回 全国選抜少年剣道合宿錬成会(中止) 各都道府県 道場少年剣道大会 (全国大会予選)	1日(水)～4日(土) (4月～5月)	東京・錬成会館 全国各地
5	第43回 京都会員講習会(中止) 各都道府県 道場少年剣道大会 (全国大会予選) (注 各都道府県道場少年剣道大会は5月24日までに終了をお願いします。) 理事会	5月4日(月・祝)予定 (4月～5月) 安全な状況であれば 2月上旬までの大会開催を推奨 5月25日(月)	京都・武道センター 全国各地 東京・全道連本部
6	定時評議員会	6月12日(金)付	書面決議
7	第55回 全国道場少年剣道大会(中止) 剣道少年団海外交流 (中止)	7月29日(水) 小学生団体の部 7月30日(木) 中学生団体の部	大阪・おおきにアリーナ舞洲
8			
9	各地区剣道少年団研修会予選会開始 第38回 全国道場対抗剣道大会 —全国道場少年剣道選手権大会 —(第45回小・中学生男子の部) —(第38回小・中学生女子の部)(中止) 令和2年度 中部地区剣道道場指導者講習会(中止)	(9月～12月) 9月20日(日) 9月26日(土)～27日(日)	島根県・松江市 松江市総合体育館 愛知県
10	理事会 各都道府県、剣道少年団活動促進、発表会(代表者選考)	10月26日(月)	東京・全道連本部
11	令和2年度 第1回剣道指導者研修会(中止)	11月	東京・錬成会館
12	第20回 毎日レディース剣道大会(中止)	12月13日(日)	東京
2021年			
1	令和2年度 全国少年剣士書道展(WEB展) 審査 優秀剣道少年団表彰—本部選考 意見聴衆会議 令和2年度 東北地区剣道道場指導者講習会(中止)	1月18日(月) 1月30日(土)～31日(日)	東京・全道連本部 山形県・米沢市
2	第43回 日本剣道少年団研修会(文書選考)	2月21日(日)	
3	令和2年度 第2回剣道指導者研修会 優秀剣道少年団表彰 剣道少年団海外交流(中止)	3月 3月実施 3月下旬	東京・錬成会館